

UNITECR 2019 の開催

前田 榮造

UNITECR 2019実行委員会事務局長

UNITECR 2019 in Yokohama

Eizo MAEDA

Secretary General, UNITECR 2019 Steering Committee

1 初めに

第16回耐火物統一国際会議 (Unified International Technical Conference on Refractories, UNITECR 2019) が、2019年10月13日～16日の4日間、横浜市にあるパシフィコ横浜会議センターで開催され、成功裏に終了した。UNITECRは、世界4箇所の設立メンバー (Founding members: 北米, 中南米, ドイツ, 日本) が2年ごとの持ち回りで開かれる国際会議であり、我が国での開催は4回目となる。前回までの開催は何れも関西地区での開催であったが、今回初めて関東で実施された。ご存知のように、公式言語は英語であり、会議は全て英語で行われた。

実行委員会を代表して、開催された会議の実施内容について、簡単ではあるがいくつかの写真を付けて報告したい。なお、計画段階を含めた準備および会議開催の詳細については、終了報告書を作成予定なので、必要に応じてそれを参照して頂きたい。

2 参加者数

12日の夜から13日の未明にかけて関東地方を襲った台風19号によって、東日本各地では洪水などの被害を受けたが、横浜とその近郊での直接的な影響はなかった。しかし、国内の交通機関の乱れが発生し、さらに、成田空港、羽田空港が12日全日と13日午前の間に閉鎖されたため、海外からのフライトが乱れた。特に海外からの参加者の来日が遅れ、来日を諦めた人もいて、講演発表のキャンセルも相当数出た。海外からの参加者の情報を集めてみると、様々な方法で来日手段を探し回ったようである。このためか、事前登録された人の内、約10%の人が欠席された。しかし、当日の参加登録も可能であり、90名弱が当日登録したことから、最終的な会議の参加者数は859名 (展示者・ボランティアを含む)、その内、海外からは36カ国 (我が国を含めて参加国数は37カ国)、437名となった。

3 開催期間中の会議の運営

会議開催中の会議の運営は、会議運営小委員会 (委員長:

天野洋一) が主として行った。会議運営小委員会の11名の委員と、48名のボランティアスタッフによって会議は運営された。委員とスタッフには、桜色の地色にUNITECR 2019のロゴマークを付けた法被 (はっぴ) を着てもらうことで、会議参加者からスタッフであると容易に認識できるようにした。

台風の影響によって、講演発表者や座長の来日が遅れ、あるいは来日できないケースが相当数発生したため、講演発表者が欠席した講演についてはキャンセルとし、座長の欠席に対しては急遽、国内の参加者に座長を依頼することで対処した。

オープニング・セレモニーと講演発表の会場では、講演スライドの写真撮影を禁止した。しかし、禁止したにもかかわらず、写真撮影を行う人が大勢いた。写真撮影者を発見したときは、注意して写真撮影を止めさせた。講演会場の様子については、スタッフが写真撮影を行った。

会議運営の点では、参加受け付け、新規登録、クローケ、講演発表データのホストへの受け渡し、ランチ (弁当) の配付、コーヒブレイク用の飲み物の準備、会場への誘導、一般講演発表の運営など、全般的には概ね順調にできたものと考えている。



Fig. 1 Registration



Fig. 2 Coffee Break



Fig. 3 Lunch



Fig. 4 Welcome Party

会議では、「和のテスト」を全面的に示すように工夫した。前述の法被もその一つであるが、コンgresバッグは和柄の綿のトートバッグとし、座長への記念品として江戸小紋柄の風呂敷を選び、ランチは「お弁当」としたほか、後述のバンケットでも工夫した。

なお、余談ではあるが、前述の法被は参加者には好評で、海外からの数名の参加者からは是非欲しいと乞われたので、会議終了後にプレゼントした。

4 会議の実施

4・1 ウェルカム・パーティ

ウェルカム・パーティは、13日17:00から、パシフィコ横浜の3階の会議室およびその前の横浜港の夜景を眺めら



Fig. 5 Welcome Party



Fig. 6 Opening Ceremony

れる景色の良いホワイエを会場として開催された。台風の影響で、特に海外からの参加者の来日が遅れて、参加者は比較的少なかったものの、約300名に達して、旧交を温めあった。

4・2 オープニング・セレモニー

14日9:00から、メインホールでオープニング・セレモニーが開催された。三木平基・品川リフクトリーズ常務の司会で開催され、黒田浩太郎・組織委員会委員長の挨拶があり、次いで、高田修三・経済産業省製造産業局長（代読：吉村一元・同素材産業課長）の祝辞があった。

特別講演として、金重利彦・実行委員会委員長の座長により、曾谷保博・JFEスチール副社長が、“Contribution to Global Environment by Development of Steel Technology. A Challenge towards Zero-carbon Steel”のタイトルで講演された。また、後藤潔・実行委員会副委員長の座長により、今給黎佳菜・博士による“The History of Japan's Ceramic Export Industry”と、木川栄一・海洋研究開発機構・海底資源研究開発センター研究開発センター長による“Japan: A Resource-Rich Country?”が講演された。

4・3 講演発表

Abstractの受付終了時には、301件の講演発表の申し込

みがあったものの、Proceedingの受付の際には241件に減少（中国からの減少が目立った）した。この241件を“Proceedings”として、9月30日にホームページ上に公開した。公開したProceedingsは、参加登録者に伝達したパスワードによって閲覧可能とした（なお、“Proceedings of UNITECR 2019”は英国の出版社から後日、出版予定である）。

講演発表は、14日の14:00～18:00、15日と16日は9:00～18:00の間、パシフィコ横浜会議センターの5つの会場で開催され、発表15分、質疑応答5分の合計20分の持ち時間であった。台風の影響による講演発表者の欠席にともなう講演キャンセルは35件となり、実際の講演発表数は206件となった。しかし、前述のようにホームページにProceedingsを公開していることから、欠席があっても講演発表がなされたものとみなした。

また、若年の研究・開発者の養成を狙い、35歳以下の若手講演者に対して優秀発表賞（Excellent Presentation

Award）を贈ることを計画し、講演発表申込時からそれをアナウンスした。その効果もあるのか、その対象講演は、241件中108件となった。Proceedingによる書類審査、および講演発表の審査を経て、17名の若手の研究者に若手優秀発表賞を贈呈した。受賞者は、バンケットで表彰された。



Fig. 10 Proceedings



Fig. 7 Breakfast Meeting



Fig. 11 Excellent Presentation Award



Fig. 8 Presentation



Fig. 12 Excellent Presentation Award



Fig. 9 Presentation



Fig. 13 Excellent Presentation Award

4・4 バンケット

パシフィコ横浜から少し離れた横浜ロイヤルパークホテルで、16日19:00から、バンケットが開催された。黒田委員長ご夫妻、金重委員長ご夫妻（両ご令室は和装）が会場の入口で、参加者をお出迎えした。バンケットは、上野広子・グロリア21代表が司会を務め、金重委員長の開会挨拶で始められた。その後、黒田委員長によって今回のIEB会議（後述）で推戴された3名のDLM（終身名誉会員）に対し認定書が授与された。新DLMは、耐火物技術協会から塚本昇・元耐火物技術協会会長、中南米耐火物協会からMr. Pablo Valenzuela、インド耐火物協会からMr. Shri Gopal Rajgrarhiaの3名である。新DLMを合わせた会議出席のDLMによる鏡割りが行われ、杉田清DLMによって乾杯の発声が行われた。



Fig. 14 New DLM



Fig. 15 Kagamiwari



Fig. 16 Banquet



Fig. 17 Next UNITECR

バンケットでも「和のテスト」とするため、両委員長のご令室や司会者を含め10数名の女性の方々には和装をして頂いた。また、インターバルでは、琴や太鼓などの和楽器の演奏が行われた。さらに、実行委員によって各地から集められた日本酒（地酒）を参加者に振る舞った。

前述の若手の優秀発表賞の表彰が行われ、選定委員長である大矢豊・岐阜大学教授によって、17名の若手研究者に対し表彰状と記念品が贈呈された。

さらに、次回のUNITECRの紹介が米国セラミックス協会によって行われた。UNITECR 2021は、米国シカゴで2021年9月14日～17の予定で開催されると紹介された。

バンケットは21時に閉会の予定であったが、なかなか解散せず、終了は22時をまわった時間となった。

5 展示ブース

会議の開催に併せて、耐火物メーカー、原料メーカー、装置メーカー、出版社などによる展示が行われた。展示のブース数は、全部で51ブース（1社で数ブース使用を含める）となった。展示ブース会場の一つは、横浜港が見える景色の良い会場であり、そこにコーヒーなどの飲み物や多少の茶菓などを用意したため、多くの人を訪れていた。

6 IEB会議

IEB (International Executive Board) 会議とは、UNITECRの運営委員会であり、国際会議の様々な方針などを話し合い、決める会議である。IEB会議は、当初、13日13:00～に予定されていたが、出席予定者の来日の遅れが明らかになったため、15日の9:00～に変更した。

2018年（昨年）のIEB会議（横浜開催）では、会議の開催方法の変更が決定された。従来は世界4箇所の設立メンバー（北米、中南米、ドイツ、日本）が2年ごとの持ち回りで開かれていたが、主要メンバー（Principal Members: 中国、インド、欧州）に対しても、会議開催の門戸が開かれることになった。主要メンバーによる開催は10年に1度とし、6年前に申し込めば会議開催に相応し



Fig. 18 Exhibition

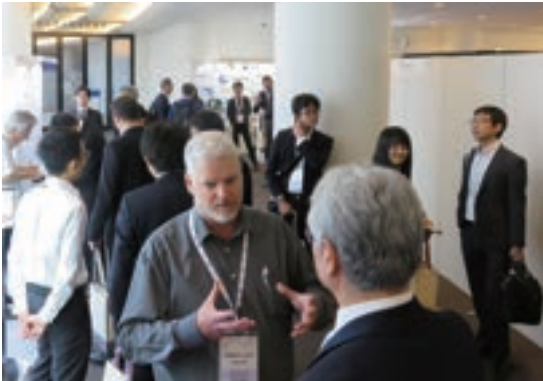


Fig. 19 Exhibition



Fig. 20 Exhibition

いかどうか、主要メンバーで協議、投票して決めることになった。

2019年（今年）のIEB会議では、中国から2025年開催の申し込みがあったため、中国によるプレゼンテーションが行われ、設立メンバーによって会議開催の是非について議論された。その結果、会議への参加登録に対する協調性の欠如（AbstractからProceedingへの申込数の減少など）や、

講演スライドの写真やビデオの撮影（今回のUNITECRでも頻繁に行われた）などのルール違反が指摘され、2025年の中国による会議開催提案は、却下された。

なお、中国が2027年の開催を希望すれば、2021年のIEB会議に対し中国が申請書を提出することは可能である。しかし、私見ではあるが、上述の指摘事項が解消されなければ、中国での開催はさらに見送られることになるのではないかと推定する。

また、前述のように、本会議で3名のDLMが推薦され、全会一致で承認された。

さらに、IEB会議では、次回開催のUNITECR 2021の紹介がなされ、2021年9月14日～17日の4日間の予定で、米国・シカゴ・ヒルトンホテルで開催され、PresidentはThomas Vert (DLM) であることなどが報告された。

7 結言

以上、簡単ではあるものの、会議開催の報告としたい。次回の日本開催は8年後（あるいは10年後）となるため、前述の通り詳細な終了報告書を作成して、次回の会議担当者への会議開催に対するマニュアルのような形でまとめたと考えている。

この項の最後として、関係した皆様に対して、感謝の意を表明したい。

横浜での4日間の会議開催に対し、会議運営書委員会委員、プログラム小委員会委員、多数のボランティアによって支えられたことに感謝したい。また、委員以外にも講演発表や座長を引き受けて頂き、さらに参加登録により、多数の方が直接的に会議に参加していただいたことに対しても、感謝いたします。

さらに、UNITECR 2019を成功裏に終わらせることができたのは、開催の4年前の会議の準備に始まり、その後の準備委員会、組織委員会、実行委員会など数々の皆様の長期間にわたるご協力の賜物によるものであると感謝いたします。このような人的な協力のみならず、経済団体連合会、鉄鋼連盟、耐火物協会などの業界団体や、各企業からの寄付、展示ブースの開設や広告の掲載、各社からの参加登録などによる財政面における多大な寄与に対しても、重ねて感謝いたします。